

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1273400307
法人名	有限会社 憩
事業所名	グループホーム 憩
所在地	〒299-0236 千葉県袖ヶ浦市横田1708番地の1 (電話) 0438-75-7010

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年5月30日

【情報提供票より】(21年3月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 4.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造
	2階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費22,500 円他	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	540 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,340 円		

### (4) 利用者の概要( 3月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	81 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	君津中央病院・さつき台病院・木更津東邦病院・福王台外科内科・みしなクリニック・井出医院・神田整形外科クリニック・小関耳鼻咽喉科・高浦歯科医院・平岡歯科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周辺を田畑に囲まれたのどかな環境の中にある。職員は理念にも掲げられている「近所・地域住民や家族とのふれあいの大切さ」を意識し、日常的に近隣の住民との交流の機会を持つよう心がけている。特に「褥瘡をつくらない、つくらせない」をモットーにケアに取り組んでいる。常により良いホームを目指して、家族・関係者からの意見をすぐに改善につなげていく努力がされている。また、多くの家族が家庭的な雰囲気があると感じ、職員への信頼も厚く、ホームへの家族の訪問の機会も多い。今後は、ショートステイ、デイサービス、グループホームを現在の1ユニットから2ユニットへの増設を計画している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善課題であった「運営に関する家族等意見の反映」についてはホームの訪問時に家族から個別に出された意見や要望を反映し、改善につなげている。「同業者との交流を通じた向上」では、同市のグループホームとの交流会の開催が試みられ、管理者と職員が参加し、意見交換がされた。今後もホームの改善に向けて継続していく予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が、職員に自己評価表を配布し、話し合いの場を設けて意見や提案を求めた。その後、話し合いの結果を踏まえて管理者がホームの自己評価として作成をした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	特に本年度はメンバーに対して、防災訓練への参加の呼びかけをし、区長や民生委員の参加があった。その結果、緊急時の対応手順が文書化され、玄関の電話の近くに掲示された。また、火災防止のためコンセントのほごりを取り除くことの必要性が提案され、早速実行した。更に、防災訓練の結果を踏まえて、民生委員が地域の人々への協力依頼をしてくれた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年1回の家族会は行事に合わせて実施されているが、多くの意見は入居者への訪問時などに、個別に出されており、その都度対応している。一方で家族に配布する文書等に外部機関(例えば市町村など)への相談・苦情窓口の記載がないので、即急に修正する予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームの特徴の一つとして、地域との積極的な関わりがある。近隣住民とは、散歩時の挨拶や野菜のおすそ分け等、日常的に交流がある。入居者も近隣住民との触れ合いを楽しみにしている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は、開設以来職員が心がけ、実践してきたことへの想いを言葉にしたものであり、職員みんなで話し合いつくりあげた。特にホームとして、近所・地域住民や家族とのふれあいを重視している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの入口に掲示され、職員間で共有している。職員一人ひとりが常に入居者の身体と精神面に心向け、地域や近隣住民との関わりを大切に、理念の実現に努めている。毎日の散歩の時間や地域の行事に参加することで地域住民との交流を持つようになっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、市の主催による文化祭やゲートボール大会などに参加し、地元の人々との交流の機会としている。近隣住民が歩の際に休める腰掛椅子を作ってくれたり、野菜のおすそ分けや花を植えて来てくれるなど、日常的な交流も盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果は、カンファレンスの中で職員に伝えられ、みんなで改善点を話し合った。今回の自己評価への取り組みとしては、まず職員に評価表が配布され、話し合いの場がもたれた。その中で出された意見や提案をもとに、管理者がホームの自己評価としてまとめた。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、区長・民生委員・市の職員・入居者の家族代表・ホーム代表の毎回全員参加の開催となっている。特に、本年度は、消防訓練への参加をメンバーに呼びかけたところ、数名の参加があり、緊急時の対応手順の文書化など、意見や提案がされ、改善に繋がった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回の市の介護相談員の訪問を入居者は楽しみにしており、職員も相談員からの意見や提案をケアの改善につなげている。最近では、地域包括支援センターとの連携を図り、空き室の状況などの情報交換が行われるようになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態のデータと生活状況は請求書と共に毎月送っている。金銭管理に関しては動きがあった際に家族に報告している。職員の異動等は家族会で伝えている。また、年に一度“いこい新聞”を作成し、1年間のホームでの入居者の生活ぶりが写真付で伝え、家族に配布している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回行事に合わせて開催し、家族と職員との親睦を深める場となっている。家族からの意見や要望は、訪問時に個別に出されることが多い。本年度からは家族の一人がボランティアとして定期的にホームを訪問し、さまざまな提案をしている。重要事項説明書等に外部機関(市町村など)への相談・苦情窓口の記載がないので、修正することになっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間で職員の離職は無く、顔なじみの職員の入居者に対する支援が継続されている。仕事の上で問題や疑問が生じた時には、一人で抱え込まずに職員同士で話合える環境ができている。職員は働きやすい職場であると感じている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤職員とも希望に合わせて、出勤扱いで研修が受講できるようシフトも考慮されている。また、隣接する訪問介護の職員からケアの技術を学んだり、看護師からアドバイスをもらうなど必要に応じてホーム内での研修も行なわれている。しかし研修計画を立て計画的に実施するまでにはいたっていない。	○	職員は希望に合わせて研修を自由に受講できる環境は整っているが、研修に積極的に参加しているとはいえない。今後は職員の段階に応じた、計画的な研修を実施し、さらなるケア技術や支援への向上が期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会・全国認知症グループホーム協会・市の社会福祉協議会に加入し、積極的に他の事業所との交流に努めている。また、新たな取り組みとして、同市内にあるグループホームとの交流を始め、管理者と職員が参加し、意見交換がされた。今後も、この交流を続け、ホームでの支援の改善につなげていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に入居者の自宅訪問をしたり、病院を訪問して、状況の把握につとめたケースもあるが、多くの入居者に対しては、入居後に本人の状態を観察した上で、個別の対応をしている。家族の協力を得て、外出や外泊をくり返しながら、徐々にホームでの生活に慣れるようにするケースもある。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が入居者から料理の味付けなどを学ぶことも多く、車の運転が得意だった利用者からアドバイスをもらうなど、職員は共に生活をしていくという姿勢のもとで支援にあたっている。洗濯物を入居者と一緒に干したり、夜の食器洗いは、当番制にするなど入居者が力を発揮できるよう工夫がされている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で個人で過ごす時間帯もあり、マイペースを尊重している。言葉での表現が困難な入居者に対しては、生い立ちや環境、またプライドなどに配慮し、行動観察をし、思いを受け止める努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の能力を最大限に発揮できるよう家族から聞き取りを行ない、生活歴が書かれた「プロフィール」の完成に至った。その情報をもとに、本人・家族の希望や、職員のアイデアを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎に見直しをしている。入居者の状況などは常に変化しており、日々の業務において、職員間で意見交換し、かかりつけ医に意見を聞くなど、臨機応変に見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療連携体制により、入居者の健康を維持できるよう柔軟な対応をしている。隣接している訪問介護の事業所の職員が介護技術をアドバイスしてくれる事もある。さらに多機能性を生かす取り組みとして、現在ショートステイ、デイケアを市に申請中である。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週に1回、定期的に協力医療機関が往診している。以前からのかかりつけへの受診が必要な入居者に対しては、管理者が家族と一緒に付き添い、送迎する事もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針が整備されており、家族と終末期における対応について具体的に話し合っている入居者もいる。対応が一人ひとり異なるので、今後は、往診医等も含めた話し合いが必要と感じている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の日々の生活を支える者として、常に入居者の立場にたった支援がなされており、さりげない言葉かけや対応を心がけている。特にトイレでのプライバシーの配慮に気を配り、男女別のトイレも用意されている。また、記録は所定の場所で保管し、夜は施錠している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のように、家族やボランティアなどホーム以外の人との交流がある。入居者一人ひとりが個々のペースで生活を楽しんでおり、個人を尊重している様子がうかがえる。いつの間にか自然とみんながリビングに集まり職員と一緒に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する支援は、一人ひとり好き嫌いがあるので、職員は強制をせず、さりげなく入居者に参加を促すに留め、個性を尊重している。食事は管理者も含め全員でテーブルを囲み和やかな雰囲気であり、片付けも全員で行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週2回の入浴になっている。朝8時から夕方5時ぐらいまでに入っている入居者が多いが、夜間の入浴を楽しんでいる入居者も何名かいる。希望があればいつでも入浴ができるような体制を整えている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームは家族が気軽に訪ねて来たり、近所の人と野菜の交換をするなど、開放的な雰囲気がある。近所の公民館の文化祭には毎年出かけており、ゆくゆくは入居者が作品を出展することも考えている。職員は、入居者にとって張り合いのある日々を過ごすために何ができるかを考えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日午前中に散歩をするのが日課になっている。入居者の誕生日には、希望を聞き、全員で外食することになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室及び玄関は日中は鍵をかけていない。中庭があり、自由に入出入りしている。外門は防犯上鍵をかけているので、外出の希望があった時は、職員も一緒に出かけるなど安全に配慮しつつ、自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から災害時を想定し、入居者がスムーズに非難できるように心がけており、職員と入居者が避難方法を身につけている。夜間の災害時にも協力員が10名ほど駆けつけられる連絡体制ができています。また、毎年春に消防署と協力し避難訓練を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では職員がカロリー計算をし、摂取量についても、入居者の一人ひとりの食欲に合わせ、声をかけるなど必要な支援を行なっている。食材は、ホームの畑で入居者と一緒に作った旬の野菜を取り入れ、バランスの良い献立になっている。水分も確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は吹き抜けで、明るく開放的な設計になっており、大家族で生活を楽しんでいるような雰囲気がある。3月にはお雛様を職員と入居者が作り、玄関に飾るなどして、その時々で季節感を採り入れる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドなどは、以前から入居者が使用していたものを持ち込み、居心地のよい環境作りを家族と共に行なっている。入居者の体の状況により、手すりを取り付けたりし、一人ひとりが居室で快適で安心して過ごせるよう工夫をしている。		